



昭和大学藤が丘病院 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

# 病院だより

2022年1・2月  
第344号

病院だより第344号（2022年1・2月号）

発行者 昭和大学藤が丘病院  
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院  
発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛  
編集責任者 広報委員長 森岡 幹  
〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30  
Tel 045-971-1151

## 新年のご挨拶

藤が丘病院 病院長 高橋 寛

新年明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、皆様の健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

昨年のCOVID-19の4波および5波への対応については、職員の協力と多大な負担のお陰により、何とか切り抜けられたことを心より感謝申し上げます。

一昨年の2月に横浜港に入港したダイヤモンドプリンセス号（乗客3711名）船内でのCOVID-19の集団発生を皮切りに、昨年の9月までの5波までに昭和大学全体の実入院患者は3580名に及びました。藤が丘病院には869名の入院がありました。特に8月から9月にかけては急激にCOVID-19患者が増加したため、COVID-19病棟が満床となり、救急車の受け入れ率が50%にまで低下する事態となりました。医療体制が逼迫した状況下で医療崩壊の危機を乗り越えられたのは、これまで以上に全病院スタッフの協力による賜物と深く感謝しています。

11月以降は全国的にCOVID-19患者の数は激減しました。藤が丘病院においても、陽性患者および疑似患者は0件で推移しています。しかし、さらなる変異株としてオミクロン株の蔓延が危惧されています。すでにオミクロン株感染者の数は年末に比べて3倍にまで増加しています。オミクロン株は感染力が従来のデルタ株と比較して非常に強いと言われており、ワクチンを接種した人でも感染するケースも報告されています。この様な状況ですので、気を緩めずにこれまで以上に注意を怠らないようお願いいたします。それぞれが自覚をもった行動をすることにより、この難局を切り抜けていただきたいと思います。

さて、昨年は卒後臨床研修評価機構の更新審査を受けましたが、問題なく承認されました。

今年は2月28日、3月1日に日本医療機能評価機構の認定審査を受ける予定です。藤が丘病院は卒後教育機関として、また地域における急性期医療を支える基幹病院として機能する役割を担っております。ただ単に基準を満たしているということだけではなく、より優れた病院として評価されるよう皆様のご協力をお願い致します。

さらに今後予定されている病院の再整備に向けて、病院スタッフが丸となってより新しい病院にふさわしい躍進が出来ることを願っております。



## 新年のご挨拶

藤が丘リハビリテーション病院 病院長 市川 博雄

令和4年という新しい年を迎えることとなりました。本年は開院から32年目を迎えることとなりますが、昨年は新型コロナウイルス感染流行との闘いのなか、当院でも様々な苦労があり、職員の皆様には息抜きもないままに、辛抱強くかつ献身的に職務を実践頂き心より感謝申し上げます。まだまだ予断が許されず年末年始の行事が自粛されるなかではありますが、新型コロナウイルス感染流行がしばし落ち着くなかで新年を迎えることができ東の間安堵しております。

当院は197の病床を有し、そのうち一般病棟が101床、回復期病棟が96床となっております。昨年の新型コロナウイルス感染症流行時においても病棟機能の変更はせず、急性期病院である藤が丘病院と連携しながら、可能な限り通常の診療を継続してまいりました。診療行為や看護、そしてリハビリテーションを実施するにあたっては、人と人との密な接触を避けることができないジレンマがあるなかで、様々な感染予防策により、昨年はクラスター発生もなく新年を迎えることができました。本年も可能な限りの感染予防策を講じつつ、十分な診療そしてリハビリテーションを提供してまいりたいと思っております。なお、当院ではリハビリテーション医療のほか、眼科診療を行っておりますが、一時中止しておりました土曜日の眼科外来を昨年途中より再開しております。近隣の医療機関からの紹介も増加してきていますが、今後とも引き続き宜しくお願い申し上げます。現在、入院前にはPCR検査を実施するなどの対策を講じておりますが、本年も十分な感染予防策を実施しながら通常診療を継続してまいりたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症流行により辛い時期が続いておりましたが、今年の干支である壬寅（みずのえとら）には、厳しい冬を超え、生命力に溢れた春が芽吹き、新たな成長の礎となるという意味合いもあるそうです。一日も早く新型コロナウイルス感染症流行が終息し、飛躍の年になりますよう心より祈念致します。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



## 事務長就任の挨拶

藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院  
事務長 倉地 夏樹

2021年12月14日より藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院の事務長として着任いたしました倉地夏樹(くらちなつき)と申します。



身に余る重責ではございますが、誠心誠意、藤が丘病院および藤が丘リハビリテーション病院の発展に尽力し、患者さんのみならず、地域近隣の皆さまのご期待に添えるよう、より一層努力していく所存です。今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

私は2002年に入職以来、藤が丘病院管理課、学事部学務課、横浜市北部病院管理課、歯科病院など病院部門・教育部門で過ごしてまいりました。二つの部門で勤務してきた経験を活かし、昭和大学職員としてのキャリアをスタートさせた両病院に恩返しができるよう貢献してまいります。藤が丘病院は地域医療支援病院として近隣医師会と協調して地域医療に貢献するとともに、高度急性期医療の提供、救急指定病院として救急医療体制の提供など、地域中核病院の役割を担っております。また藤が丘リハビリテーション病院は、総合的リハビリテーション医療を提供できるリハビリ専門施設であり、回復期リハビリテーション病床のほか、一般病床もございます。両病院が連携し、多職種連携によるシームレスな医療体制により、今後一層皆様に安全かつ安心してご来院いただける病院となるように邁進してまいります。

今年の干支は「壬寅(みずのえ・とら)」です。干支はそれぞれに意味があり、「壬寅」は「陽気を孕み、春の胎動を助く」、厳しい冬を越えて芽吹き始め、新しい成長の礎となる年になるといわれております。

2020年1月に国内初感染者が確認された新型コロナウイルス感染症は新たな変異株の蔓延もあり、いまだに終息の兆しは見ておりませんが、今年は高橋病院長、市川病院長を中心に全職員が一丸となりコロナ禍を乗り越え、地域住民の皆様が地域の医療機関の皆様に愛され、頼られる医療を提供できる体制を築いていければと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## がん教育研究授業に講師を派遣しました

2021年度より当院は地域がん診療連携拠点病院に指定されました。その指定要件に、「緩和ケアやがん教育をはじめとするがんに関する普及啓蒙に努めること」と示されています。

この度、県教育委員会保健体育課よりがん教育の外部講師派遣依頼があり、12月13日に青葉区鉄町にある横浜市立鉄小学校に、内科(腫瘍・緩和医療)の関川高志医師と松林幸子看護師を講師として派遣し、6年生を対象に授業を行いました。

### がん教育研究授業に参加して

— 子供たちは想像より鋭い視点を  
持っている —

藤が丘病院 内科(腫瘍・緩和医療)  
関川 高志

2021年12月、神奈川県外部講師を活用したがん教育研究授業に講師として参加しました。場所は横浜市立鉄小学校で、6年1組14名の児童に授業を行いました。このクラスは担任の池田翼先生指導の下、以前から「命の授業」を行っており、今回が4回目の学習でした。事前に児童にがんについてのアンケートを行い、それを元にインタビュー形式で授業を行いました。「なぜがんになるの」、「予防や早期発見・治療法」など、基本的な質問が前半であり、後半は「先生にとって命とは」、「がんを告げるときはどんな気持ち」など、非常に難解で鋭い視点の質問がありました。限られた時間で、正解のない答えを話すのは本当に大変でした。児童たちはがんを通しての命について考え、「命とは」の質問にそれぞれ自分の考えを持っており、逆に考えさせられる結果となりました。

すべての学校に展開するにはまだ課題が多いものの、がん教育により、がん・病气・命と向きあう最初の心構えができればと期待します。



## 緩和ケア研修会が開催されました

2021年12月5日、藤が丘病院にて「藤が丘病院緩和ケア研修会」が開催されました。緩和ケア研修会は、がん等の診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、知識や技術、態度を習得することで、緩和ケアが診断の時から適切に提供されることを目的としています。また地域がん診療連携拠点病院の役割として、都道府県と協議の上、開催することが規程されています。

企画責任者の中山博文講師(内科(腫瘍・緩和医療))、佐々木康講師(産婦人科)が中心となり、新型コロナウイルス感染症が予断を許さない中、感染リスクを抑える方法での開催を検討してまいりました。その結果、初めての試みとしてハイブリッド形式での開催を行うこととなりました。少人数ごとに複数の会場に分かれ、Zoomを用いて



各会場をつなぐという形式で行い、試行錯誤しながらソーシャルディスタンスに配慮しつつも中身の濃い研修会になるよう努めました。

当日は、医師の他、看護師やソーシャルワーカー、薬剤師など様々な職種の方々にもファシリテーターとしてご協力をいただき、滞りなく無事終了いたしました。

今回の研修会には外部からの参加者を含む医師8名、コメディカル4名が参加し、職種・病院の垣根を越えて積極的に意見交換がなされました。参加者からは様々な職種の方の意見を聞くことができ勉強になったとの感想があり、有意義な研修となりました。

これからも地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たし、より多くの医療従事者が患者さんへ適切な緩和ケアを提供できるようにこの研修会を続けてまいります。

## 2021年病院功労賞の表彰が行われました

2021年12月14日に開催された病院運営委員会の冒頭で、2021年病院功労賞の表彰が行われました。今年は、新型コロナウイルス感染症関連の対応に多大な尽力をされた部署が表彰の栄に浴し、藤が丘病院賞として救急医療センター、呼吸器内科、感染管理室に、リハビリ病院賞として感染管理室にそれぞれ表彰状と副賞が授与されました。



## COVID-19をやっつけろ！ —奇跡は日頃の努力から—

藤が丘リハビリテーション病院 感染対策室長  
リハビリテーション医学講座 教授 川手信行

当院感染対策室が病院功労賞を頂きました。ありがとうございました。心から感謝申し上げます。

皆様ご存じの通り、リハビリテーション病院は、200床に満たない小さな病院で、もっぱらリハビリに特化しており、検査も限られている病院です。

2年前頃からのCOVID-19の蔓延によって、関連病院が相次いで院内発生やクラスターが発生している中、当院では持ち込み2例を除いて患者のCOVID-19発症やクラスター発生を抑えることができました。これは、当院の規模や検査体制を考えると、まさに奇跡です。しかし、この奇跡は偶然に生じたのではなく、感染対策室や、職員皆様一人ひとりが昼夜を惜しまず感染対策を励行し、この小さな病院を守るために努力した結果がこの奇跡をもたらしたのです。職員の皆様一人ひとりに、心より感謝申し上げます。

今後もオミクロン株の流行など、まだまだCOVID-19

との戦いは続きます。職員皆様と共にこれからもさらに一層努力を重ね、この病院を守っていきたいと思います。ご協力の程、宜しくお願いたします。

## 公開講座について

昨年の7月下旬から8月にかけて、初めての試みとしてWebを用いた公開講座を行いました。テーマは、「新型コロナウイルスについて」と「ポリファーマシー ～そのお薬は本当に必要ですか？～」でした。期間中多くの方にご視聴いただき、講演内容の理解を深めて頂くとともに、藤が丘病院・リハビリテーション病院のことを知っていただく機会にもなったかと思っております。

さて、この度2021年度第2回公開講座を2月に昭和大学のYouTubeチャンネルにて行います。テーマは、「心臓カテーテルについて」と「ダヴィンチ手術について」です。冬季は心臓に負担がかかりやすい季節でもありますので、この時期にみなさまにお届けすることで、毎日の暮らしが少しでも健やかになれば幸いです。また、今年度より開始した手術としてダヴィンチ手術という支援ロボットを用いた手法があります。聞きなじみのない方もいらっしゃるかと思いますので、この講座を通じて、みなさまに身近に感じていただければと思います。コンテンツが完成次第、病院のホームページ等でご案内致しますので、みなさまのご視聴を心よりお待ちしております。

## のぼり旗掲出訓練を実施しました

阪神淡路大震災発災日である1月17日(月)に、青葉区災害時「医療のぼり旗」掲出訓練に参加しました。こののぼり旗は、区内において震度6弱以上の大規模震災が発生した時に、被災を免れ診療が可能な医療機関の目印として掲出するものです。のぼり旗には赤色と黄色の2種類があり、赤色の旗は重症者の受入れを担う災害拠点病院等、黄色の旗は中等症者・軽症者の受入れを担う病院・診療所が掲出します。災害時には掲出されたのぼり旗を見れば、緊急度や重症度に応じてどの医療機関を受診すればよいのか判断することができますので、地域の皆様にもご留意いただければと思います。

東日本大震災発災日である3月11日、防災の日(関東大震災発災日)である9月1日にも同様の掲出訓練を行う予定となっております。





Congratulation on your 20th Birthday!!



寒さ厳しいなか、ご成人心よりお祝い申し上げます。

我が国における成年年齢は、1876年（明治9年）以来20歳とされてきました。

成人を祝う儀礼は古くからあり、男子には元服・禪祝、女子には裳着・結髪などがあり、今日の成人式は「成年式」・「おとなになったことを自覚し、みずから生きぬこうとする青年を祝い励ます」の趣旨で年度内に満20歳となる人を激励・祝福する行事とされてきました。成人の日は、満20歳を迎え新成人となったことを祝う日であり、同時に多くの社会的責任を負うことへの自覚を促す日でもあります。自己決定権を尊重し積極的な社会参加を促すために、2022年4月1日から成年年齢を18歳に引き下げる「民法の一部を改正する法律」が施行され「大人の基準」が改訂されます。

藤が丘病院・リハビリテーション病院でも成人のお祝いにささやかながら『お赤飯』をご用意させていただきました。

行事食



藤が丘病院・リハビリテーション病院  
栄養科

診療統計 2021年12月

	藤が丘病院	リハビリテーション病院
外来患者数	23,644人 (1日平均/985.2人)	4,639人 (1日平均/193.3人)
入院患者数	15,491人 (1日平均/499.7人)	5,632人 (1日平均/181.7人)
紹介率	79.5%	81.7%
逆紹介率	94.3%	80.7%

《広報・公開講座委員会委員》

- |        |       |       |       |        |        |        |
|--------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|
| 森岡 幹   | 川手 信行 | 原田 浩史 | 鈴木 洋  | 佐々木 春明 | 今井 敦   | 市川 度   |
| 中田 土起丈 | 小岩 文彦 | 西村 栄一 | 小林 孝弘 | 泉 紀子   | 前田 うづみ | 佐藤 美津恵 |
| 山寺 志保  | 黒田 上総 | 岡部 圭吾 | 門田 美佳 | 山田 大暉  | 高橋 良治  | (順不同)  |